



東海中新聞

NO. 377

令和4年11月号

琴線にふれた

合唱コン

校長 今枝武司

生徒主体の手作りの文化祭が終わりました。生徒会役員や文化祭実行委員の人たちのおかげで温かい雰囲気の中で素敵な文化祭でした。

生徒会役員はアニメ「ONE PIECE」の主人公たちに扮して、東海島を冒険するというテーマでステージを盛り上げてくれました。

舞台係や照明係、会場係といった文化祭実行員も陰で支えてくれました。また、趣向を凝らした各文化部の発表やT-1グランプリ、岡崎のハーモニの代表生徒による合唱など、スクリーンにステージに展示会場に見る者を釘付けにし、大盛り上がりでした。

合唱コンクールは各クラスが練習の成果をいかんなく発揮し、感動しました。物事に感動しやすい心を琴の糸に例えて、感動したり共鳴を受けたりすることを『琴線にふれる』と言いますが、文化祭での各クラスの合唱はまさしく琴線にふれた合唱でした。

特に二年四組の「YELL」、女声パートに続き、男声パートが歌い始めた

時、涙が出ました。『サヨナラは悲しい言葉じゃない それぞれへの夢へと僕らを繋ぐ YELL』の頃になると、涙があふれて、前に座っている三年生に気づかれはしないかと焦りました。

それくらい心に響きました。あの難しい曲を丁寧に歌い上げる姿に感動しました。その曲はあたかも三年生を励ましている歌のように思えました。三年生の姿が走馬灯のように浮かびました。入学式後、すぐにコロナによる休校でした。二か月間の休校期間はどんな思いで過ごしたのでしょうか。部活動のスタートも遅れ、仮入部は六月十六日からでした。その当時、「絶対にこの子達(三年生)を笑顔にして卒業させよう」と思ったものでした。

行事はコロナ対策を取りつつもできるだけ、縮小や中止をしないように努めてきたつもりですし、生徒同士や教員とふれあう時間を確保してきたつもりです。三年生だけではなく、一年生も二年生も卒業生にも、笑顔の中学校生活を送ってほしい、二度とないこの瞬間を大切にしてほしいという一心で過ごしてきました。

「YELL」はそれを一瞬にして思い出させてくれた合唱でした。二年二組の「手紙〜拝啓十五の君へ〜」もぐっとくる合唱でした。三年生が「YELL」をどんな思いで聞いたのでしょうか。

ONLINE 笑顔満祭 東海(イーストブルー)

全員でつかみ取ったワンピース

三年執行委員

今年のテーマは「ワンピース 笑顔満祭 東海(イーストブルー)」になりました。僕は笑顔を特に大切にしました。どうすれば、全校が笑顔になるのか生徒会執行委員で毎日話し合い、ステージで盛り上げる役を頑張ろうと思いました。

文化祭ではサイトリウム(ステイックライト)を使うなど新しいことにも挑戦しました。準備やリハーサルの時から全校でやろうという雰囲気があつて、無事文化祭を迎えることができました。

これからの東海中もテーマである「ワンピース 笑顔満祭 東海」の気持ちを忘れず、笑顔満載な中学校になっていくようにしたいです。

がんばった合唱

合唱実行委員

私達のクラスは合唱コンクールで



金賞をとることができました。合唱の曲を決めたのは一学期で先のことと思っていました。私がすぐに始まり、私は合唱実行委員に立候補しました。

合唱は思ったより大変で、いざやってみると出だしが揃わなかったり、ソプラノ、アルトの声が小さくテノールに負けていたり、先生にダメ出しされてうまくいかないことばかりでした。それでもクラスでがんばっていました。私は合唱実行委員としてクラスの合唱の魅力が伝わるように合唱曲紹介のメッセージを考えたり、ポスターを協力してつくったりしました。当日の合唱では今まで練習した成果を発揮することができ、いい合唱になったと思います。

合唱コンクール

合唱コンクール審査結果

一年金賞 五組 マイバラード

銀賞 四組 明日へ

二年金賞 四組 YELL

銀賞 二組 手紙

三年金賞 四組 友へ旅立ちの時へ

銀賞 三組 証

友 旅立ちの時

三年四組

僕は最後の合唱コンでクラスの仲間と「友」を歌えることができ、とても嬉しく夢中で練習しました。途中、技術的にそして精神的に伸び悩んだこともありました。そこで僕たちは歌う目的について皆で話し合いました。その目的とは、クラスで団結することと聞く人を感動させることだということになりました。

そこから目的が達成できる歌を目指して、クラス全員で努力しました。本番の歌は皆の気持ちが一になり、今までで一番美しい歌にすることができました。僕たちは三か月後にそれぞれの道へ旅立ちます。でも、僕たち三年四組は「友」の歌詞のようにいつもつながっています。合唱と向き合ったことで僕はそう思うことができます。



私から目を離さないでください

二年四組

この言葉は合唱コンが近づいてきてみんなの気持ちが少しづつについて

いた時、私が言った言葉だ。指揮者である私を全員が見てくれればクラスと合唱が変わる気がした。でも上手にはいかなかった。うまく指示が通らなかつたり、自分自身がクラスに迷惑をかけてしまつたりもした。けれど私も仲間も決してあきらめようとは思わなかった。金賞を取りたい、その思いが積み重なり、皆が私を見てくれるようになった。まっすぐに温かい仲間の目線は私自身の自信になった。本番は全員のことを誇らしく思えた。自らの力でつかんだ金賞にはいろいろな思いが詰まっていた。私たちの歌は圧巻だったと、胸を張って言える。こんなに温かいクラスの指揮者で良かったと心から思った

初めての文化祭で取った金賞

一年五組

中学校に入って初めての文化祭。私たちは金賞を取ることができました。私たちは金賞を取るために二つのことを意識しました。

一つ目は時間を守ることです。少しでも練習時間をのばすために移動時間を素早くしました。二つ目はみんな



の声を響かせることです。最初のころはクラスの半分くらいの人声しかはクラスの後半くらいの人声しか聞こえませんでした。だけど、クラスみんなが団結すること、金賞を取ろうと意識することで、クラスにハーモニーが響き渡るようになりました。合唱コンクールで金賞を取るため

文化部の発表

最後の演奏

吹奏楽部

今年の文化祭で私たち三年生が吹奏楽部として演奏するのは、これで最後でした。二十五分間という吹奏楽部に与えられた発表の時間を最高のものにするために私はパーカッションとして、副部長として、みんなを支えながら練習を頑張っていました。



本番では、今までのいろんな人への感謝の気持ちを込めて、練習してきたことを発揮することができました。また、みなさんがアンコールや拍手などをしてくれたおかげでとても会場が盛り上がり、最後の最後まで一生懸命練習してきたよかったです。感じることもできました。

全力を出し切った文化祭

自然科学部

僕たち自然科学部には、先輩から受け継いだ大切な使命があります。学区に生息しているカワバタモロコを守り育てていくこと、そして、学区の自然環境を守っていくことです。そのためにさまざまな活動をしてきました。河川調査や北山湿地の保全活動、校内で保護しているカワバタモロコの繁殖活動などです。



これらの活動を多くの人に知ってもらい広めていくため、野生生物保護実績発表大会や文化祭での活動報告

告の機会を大切にしています。文化祭は、思いが伝わるように全員で真剣に取り組み、発表することができました。三年間頑張ってきたよかったです。心から思いました。

大成功した文化祭

情報科学部

今年の文化祭も情報科学部は例年通り、映像作品を作りました。いくつかのチームに分かれて、それぞれ作りたいものを自由に制作しました。チームごとに作風は全く違うものの、どれも情報科学部らしく明るく、和気あいあいとした雰囲気のものが出来上がりました。特に三年生は最後の文化祭ということもあり、気合の入ったいいものを作ろうと、後輩たちを引っ張って活動しました。しかし、なかなか作品が出来上がらず、完成が文化祭当日ギリギリになってしまいました。

こだわって作ったかいがあって、当日の発表では盛り上がってもらえて、うれしさが込み上がってきました。団結力も技術力も上がった、とてもいい文化祭でした。



文教での思い出

文化教養部

自分が入部した時はコロナが流行っていて、部活動をする日がありませんでした。けれど、その少ない日の中にできざまな体験や制作などを経て、自分を成長させるきっかけにもなりました。

共同作品は個人では完成しないので、一人一人が部活の時間、真剣な眼差しで取り組んでいたのが心に残っています。そして、共同作品が出来上がっていくところが自分には新鮮で完成した時の達成感は今でも忘れられません。

この三年間は自分にとってもとても良い三年間となりました。ありがとうございました。ありがとうございました。



ミュージックベル

楽しかったミュージックベル

三年八組

文化祭でミュージックベルを演奏するのは三回目です。練習からドキドキしていました。間違えたらどうしようと思っていました。でも、終わ

った後、「すごかったよ。上手だね」と先生方や他のクラスの人がほめてくれました。うれしかったです。

最後のミュージックベル

三年八組

文化祭でミュージックベルを演奏しました。私は朝からドキドキしていました。ライトが明るくなりました。最初の音を思い切り出しました。ちょっと間違えたけど、終わった後、心がスッキリしました。楽しかったです。

TII1グランプリ

TII1グランプリは応募してくれた十三組がダンスやコント、歌を披露し、優勝を競う文化祭の目玉企画です。会場では拍手や歓声が飛び交い、おおいに盛り上がりました。全校投票で次の三名が表彰されました。

TII1グランプリ投票結果
優勝 CSディアボロ

二年四組

第二位 ドラゴンサンダー

二年一組

第三位 による

一年二組

歌で得た達成感

三年三組

私は文化祭でも発表しましたが、十一月十二日に行われた第五十回岡崎のハーモニーに出演しました。

夏休みから本格的に練習が始まりま

リベンジの成功と失敗

二年四組

僕は昨年のTII1グランプリに出場しました。そこで僕は二位という結果を出しました。しかし満足のできる演技ではありませんでした。そこで僕は二つのリベンジをしたいと今年も出場しました。一つは一位を取ること、もう一つは昨年のように演技中に失敗をしないということです。今年はTII1グランプリで優勝することができました。しかし、失敗しないことは達成できませんでした。

来年は



今年できなかったリベンジを達成できるように、新しいことにも挑戦していきたいです。TII1グランプリ二連覇という記録にも挑戦できるように、来年に向けてがんばりたいです。

岡崎のハーモニー出演

二学期今後予定

十二月

三日(日)

資源回収

(竜谷・藤川・山中)

六日(火)

二年生 仕事人講座

九日(金)

教育講演会

『星空の魅力』

講師…

さん

十二日(月) 個別懇談会

十五日(木)

(十四日まで) マラソン・駅伝大会

二二日(水)

三年生 岡崎学力検査

二三日(金)

二学期終業式

やまなみ

教育随想

心を震わせる歌声

音楽主任 原林 久代

文化祭、合唱コンクール当日。二年生最初の学級の前奏が始まる。舞台に並んだ生徒たちの顔を見て、込み上げる思いを、どうしても抑えられない。まだ歌は始まっていないのに。

制限の多い音楽科の授業。昨年より緩和されたとはいえないものの、マスクを外して歌うことが叶わない現状である。合唱コンクールを行う以上、生徒がやってよかったと思えるようにしたい。限られた時間の中、どうしたらいいのかと日々悩んでいた。

そんな中始まった学級での練習。帰りには、校舎のあちらこちらから歌声が聴こえる。時には、話し合いをしている学級もあった。合唱は、目には見えない。一人ではできない。だからこそ、クラスで創り上げる過程を大切にし、みんなで歌ったこの時間が心に残るものになってほしいと願った。

文化祭数日後、東部地域福祉センターで、各学年の代表クラスと岡崎のハーモニー出演生徒による合唱発表会を行った。利用者のお年寄りの方が、待っていた。発表後、声をかけてもらう。「先生、私は涙が出たよ。感動した。ありがとう。」と。